愛知大学

履修モデル（文学部　人文社会学科）

【履修モデルとは…】
学部学科では、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づき、「養成する人材像」を定めています。
学部学科には様々な科目が用意されていますが、「養成する人材像」を目指す上で、いつ（学年）、どのような科目を、どのような順に学んでいくか、
履修したらいいかを明示しているものが「履修モデル」です。
学生の皆さんはこれを参考に、自らの目標・目的に従って授業を選択し、履修してください。

学部・学科名	文学部・人文社会学科	対象入学年度	2025年度入学生
ディプロマ・ポリシー	文学部人文社会学科現代文化コース及び欧米言語文化コースでは、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に従い履修規程に定められた科目区分毎の卒業必要単位数および専攻別の履修要件をすべて満たし、厳格な成績評価を経ることにより、総計124 単位以上を修得した学生に対して卒業判定を行い、学位（学士（文学））を授与します。 「卒業論文」は必修で、自分でテーマを決め、資料収集・実地調査を行い、これに基づいた解釈、先行文献との比較を通して、自分なりの結論を導き出します。なお、メディア芸術専攻では「卒業論文」に換えて「卒業制作」を提出することも認めます。「卒業論文」、「卒業制作」のどちらについても、論文審査（「卒業制作」においては付帯論文審査）と口述試験を行うことで評価します。 これらを通じて現代文化コース及び欧米言語文化コースでは、以下の能力を身につけることを教育目標と定めます。 (1)専攻した学問分野に関わる専門的知識を有し、必要に応じて運用できる能力 (2)資料・データを解釈・分析する能力 (3)問題を発見し、テーマをみつける能力 (4)ものごとを自分なりに考え、新たなものを創造し表現する能力 (5)社会や文化についての素養をもち、多様性を理解しつつ、主体的に行動する能力 (6)他者とコミュニケーションし対話する能力		
カリキュラム・ポリシー	文学部人文社会学科現代文化コース及び欧米言語文化コースでは、教育研究上の目的及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で示す人材の育成を目指しています。その実現のために、以下の方針に沿ってカリキュラムを作成しています。 (1)コミュニケーション能力、情報処理能力、基本的な思考方法や総合的な判断能力を養成するため「外国語」「数理・情報」「自然」「社会」「人文」「総合」「スポーツ・健康」の分野による共通教養科目を設けます。外国語は2年次から所属する専攻によっては言語が指定されます。そのため1年次には英語とそれ以外の外国語(中国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、韓国・朝鮮語から選択)を履修し、2年次の専攻所属後に、第1外国語（8単位）、および第2外国語（6単位）を決定します。 (2)1年次生の専門教育科目では、学部必修科目である「文学部総合研究」の中で文学部の各専攻の学問の基礎に触れ、文学部全体の学問を見渡し、自分が進む専攻を判断する機会をもちます。それに加えて各コースの導入科目として「入門講義」（3科目選択可）と「入門演習」（2科目選択可）を学部選択必修科目として設け、関心のある専攻の学問領域に触れる機会が提供されています。また、学科必修科目である「人文社会学科基礎演習」では、高等教育に不可欠なスタディ・スキルの習得や広義のリテラシー教育を実施し、専門教育に向けた基礎技能の養成に努めます。 (3)学生は、上記（1）、（2）の導入科目を踏まえ、2年次から3コース8専攻（東アジア文化、哲学、図書館情報学、メディア芸術、社会学、現代国際英語、ドイツ語圏文化、フランス語圏文化）のいずれかに所属します ＊ 専攻に所属してからは、主要な専門教育科目として、演習などのコース必修科目、専攻必修科目およびコース共通選択科目の区分があり、卒業必要単位数の区分ごとの配分は専攻ごとに異なります。 講義・演習・実習等の授業形態と、少人数教育・アクティブラーニング・PBL などの多様な教育方法を組み合わせて実施することで、学術分野の特徴を活かした教育課程の展開と自発的な学修の促進を図ります。 ＊ 2021年度以降の入学生は、2年次進級時に本人の希望と1年次の成績実績（GPA）により、心理学科、歴史地理学科、日本語日本文学科に進路変更（転科）する可能性も残されています。		

履修モデル	コース	現代文化コース　図書館情報学専攻
養成する人材像	記録された知識、情報を扱う専門家としての基礎的な知識と見識を身につけることを目標とします。すなわち、ネット上に曖昧な形で置かれている情報と、精緻に確認検証された知識との違いを理解した上で、伝える(情報流通)、残す(保存)、整理(組織化)、提供(検索)するための基本的技術とその考え方をを身につけます。個人レベルのみでなく、ビジネスの場や組織体における情報の収集組織化提供を状況に即したやり方で マネージする能力とともに、人類の知的遺産のかけがえのなさを理解し、社会において情報制度のあり方に提言していくことのできる人物を育成します。	

		1年次				2年次				3年次				4年次				合計単位
		第1ｾﾒｽﾀｰ	単位	第2ｾﾒｽﾀｰ	単位	第3ｾﾒｽﾀｰ	単位	第4ｾﾒｽﾀｰ	単位	第5ｾﾒｽﾀｰ	単位	第6ｾﾒｽﾀｰ	単位	第7ｾﾒｽﾀｰ	単位	第8ｾﾒｽﾀｰ	単位	
共通教養科目	外国語分野	Communicative English Ⅰ	1	Communicative English Ⅱ	1	Practical English Ⅰ	1	Practical English Ⅱ	1									8
		Reading Ⅰ	1	TOEIC	1	Reading Ⅱ	1	Reading Ⅲ	1									
		入門中国語Ⅰ	1	入門中国語Ⅱ	1	応用中国語Ⅰ	1	応用中国語Ⅱ	1									14
		基礎中国語Ⅰ	1	基礎中国語Ⅱ	1	ギリシャ語Ⅰ	2	ギリシャ語Ⅱ	2	ラテン語Ⅰ	2	ラテン語Ⅱ	2					
	数理・情報分野 自然分野 社会分野 人文分野 総合	論理学,経済学,芸術論,ネットワーク演習,社会データ分析入門,法学,言語と文化,確率論入門,統計学入門,プログラミング,地理学																28
	スポーツ・健康分野	ｽﾎﾟｰﾂ・健康演習	2															2
専門教育科目	学部共通科目	文学部総合研究	2											卒業論文			8	14
		入門講義（現代文化）	2	入門演習（図書館情報学）	2													
	基幹科目	人文社会学科基礎演習	2			表現実習	2	現代文化基礎論	2									14
						図書館情報学概論Ⅰ	2	図書館情報学概論Ⅱ	2	メディア芸術概論Ⅰなど	2	メディア芸術概論Ⅱなど	2					
	演習科目									現代文化演習Ⅰ	2	現代文化演習Ⅱ	2	現代文化演習Ⅲ	2	現代文化演習Ⅳ	2	8
	展開科目					図書館情報サービスA	2	図書館情報サービスB	2			図書館情報資源論、調査検索実習	2					16
						図書館情報学講読I	2	図書館情報学講読Ⅱ	2	情報処理Aなど	2	専門情報Bなど	2					
	関連科目					情報組織化Aなど	2	情報組織化Bなど	2	メディア史など	2							6
	学部共通科目･基幹科目・演習科目・展開科目・関連科目・人文社会学科他コース科目･他学科科目					知識組織法Aなど	2	知識組織法Bなど	2	知的財産権など	2							4
						情報政策など	2	専門コミュニケーションなど	2	児童サービス論など	2							
自由選択	共通教養科目・専門教育科目	総合○○語Ⅰ、総合○○語Ⅱ																18
合　計			－		－		－		－		－		－		－		－	132

卒業要件（卒業必要単位：124単位）
1　共通教養科目は、次の定めるところにより、合計44単位以上を修得しなければならない。
(1)外国語分野　必修外国語として第1外国語8単位、第2外国語6単位、計2ヵ国語14単位
(2)数理・情報2単位、自然・社会・人文分野各4単位を含め、数理・情報、自然、社会、人文分野及び総合全体の中から28単位
(3)スポーツ・健康分野　2単位
2　専門教育科目は、次の定めるところにより、合計62単位以上を修得しなければならない。
(1)学部共通科目14単位
(2)基幹科目14単位
(3)演習科目8単位
(4)展開科目16単位
(5)関連科目から6単位
(6)学部共通科目・基幹科目・演習科目・展開科目・関連科目・人文社会学科他コース科目・他学科科目から4単位
3　上記のほかに、共通教養科目及び専門教育科目の中から18単位以上を修得しなければならない。